

## 北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

|       |                                                                                                                    |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者: 水産総合研究センター<br>公開日: 2024-07-03<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 岡本, 康孝<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009705">https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009705</a>                |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



# 北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

おかもとやすたか

岡本康孝（さけますセンター 業務推進部）

## 2009 年の北太平洋

### 漁獲数

第18回NPAFC年次会議における各国の報告によると、2009年1-12月の北太平洋の漁獲数は6億909万尾で、前年の3億4,754万尾より75%増加しました（図1A）。

これを魚種別に見ると、カラフトマスが最も多い4億3,921万尾で全体の72%を占めており、前年の2億159万尾に比べ118%増加し、2倍以上の漁獲数となりました。次いでサケが1億809万尾（構成比18%、対前年比122%）、ベニザケが5,441万尾（構成比9%、対前年比109%）と続き、これら3魚種で98%以上を占めています。ギンザケとマスノスケは、それぞれ633万尾（対前年比101%）、105万尾（対前年比111%）となりました（図1A）。

地域別では、ロシアが3億5,858万尾と最も多く、以下、アラスカ州1億6,301万尾、日本6,966万尾、WOCI（ワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州）663万尾、カナダ1,116万尾、韓国5万尾と続いています（図1B）。

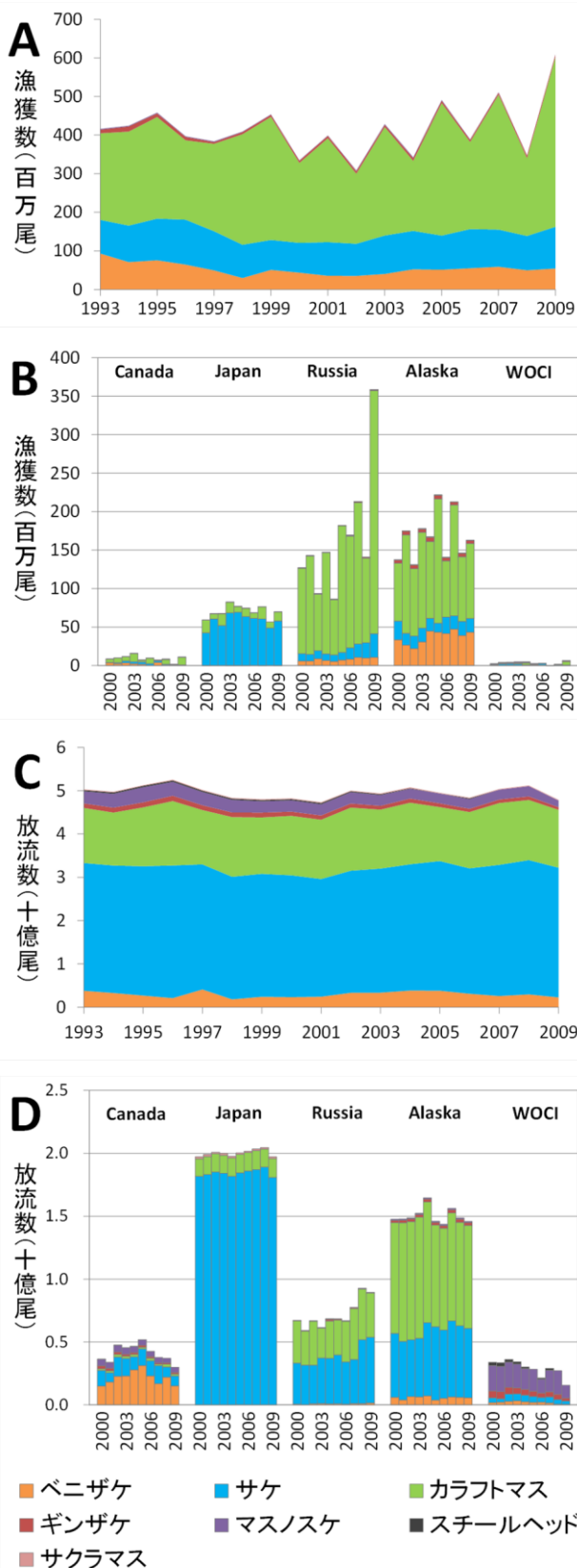
### 人工ふ化放流数

2009年1-12月に人工ふ化放流された幼稚魚数は47億8,749万尾で、前年の51億2,030万尾に比べ7%減少しました（図1C）。

魚種別ではサケが29億9,408万尾で半数以上を占め、これに次ぐカラフトマスの13億3,400万尾と合わせると全体の9割以上を占めます（図1C）。

地域別では日本が19億7,301万尾と最も多く、以下、アラスカ州14億5,910万尾、ロシア8億9,402万尾、カナダ2億9,951万尾、WOCI1億5,600万尾、韓国584万尾と続いています（図1D）。

図1. 北太平洋におけるさけます類の魚種別漁獲数(A)、地域別魚種別の漁獲数(B)、北太平洋におけるさけます類の魚種別人工ふ化放流数(C)及び地域別魚種別の人工ふ化放流数(D)。1994-2006年は「NPAFC Statistical Yearbook」による確定値だが、2007年以降はNPAFC年次報告等で示された暫定値である。1998年までのロシアにはEEZ（排他的経済水域）で他国が漁獲したものを含む。WOCIはワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州の合計。韓国は他国に比べ漁獲尾数・放流尾数ともにわずかなため、図中では省略している。



## 2010 年度の日本

### サケ

2010 年度の来遊数（沿岸での漁獲と内水面での捕獲の合計）は 12 月 31 日現在で 4,905 万尾、前年度同期比 79%となっています（図 2）。来遊数の年変動をみると、来遊数は 4,400 万尾～8,900 万尾で推移しており、資源水準は高位と判断されます。但し、ここ 3 年間は大幅な増減を繰り返しています。総採卵数は 12 月 31 日現在で 20 億 9,655 万粒となり、放流数もほぼ計画どおり（17 億 8,740 万尾程度）となることが見込まれます。

### カラフトマス

主産地である北海道における 2010 年度来遊数は 735 万尾で前年度比 66%となりました。日本でのカラフトマスは、1994 年に急増して以来、偶数年が豊漁年、奇数年が不漁年というパターンがしばらく続いていましたが、2003 年からこの豊漁・不漁年の関係が逆転し、奇数年が平均 1,200 万尾、偶数年が平均 650 万尾となっています。2010 年は不漁年ということで、前年を下回りましたが、2004 年以降の偶数年の中では最も多い来遊数となっています。なお、2010 年度の総採卵数は 1 億 7,367 万粒で計画数を超えているため、放流数も計画の 1 億 3,420 万尾を上回るものと見込まれます（図 3）。

### サクラマス

2010 年度の北海道における河川捕獲数は 5,274 尾で前年度比 41%と大幅に減少しました。総採卵数は 322 万粒で前年度比 80%となりました。なお、2009、2010 年度の本州河川捕獲数については現在確認中です（図 4）。

### ベニザケ

2010 年度の河川捕獲数は 1,081 尾で前年度比 86%となり、減少しました。総採卵数は 81 万粒と前年度のほぼ倍の値になりました。当センターでは北海道の 3 河川（安平川・静内川・釧路川）でベニザケの人工ふ化放流に取り組んでいます。

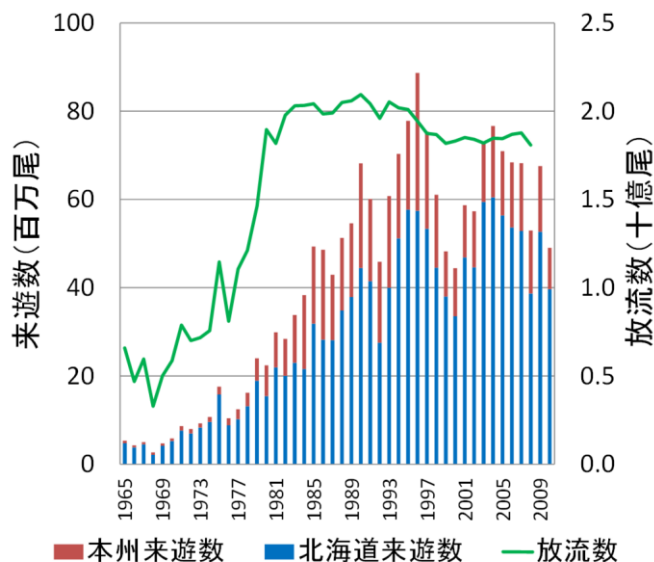


図2. 1965-2010年度の日本におけるサケの来遊数と人工ふ化放流数。2010年度来遊数は12月31日現在。

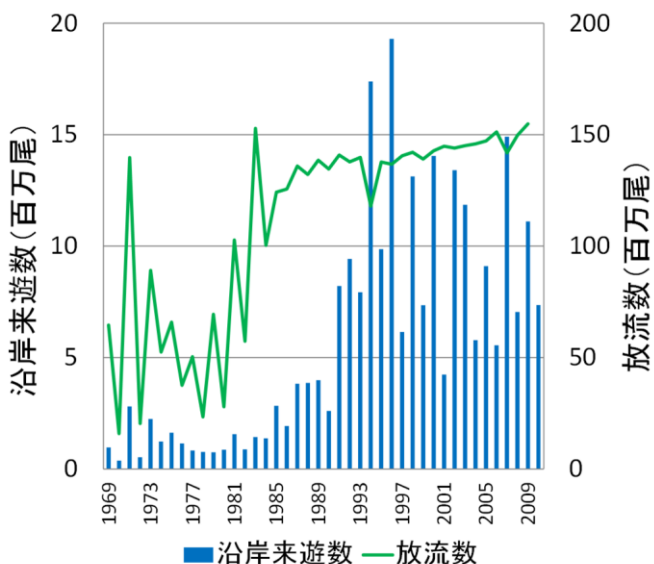


図3. 1969-2010年度の日本におけるカラフトマスの来遊数と人工ふ化放流数。

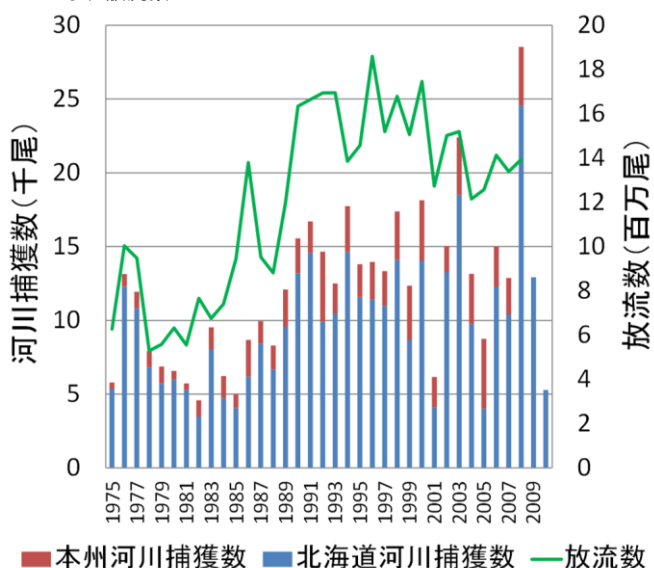


図4. 1975-2010年度の日本におけるサクラマスの河川捕獲数と人工ふ化放流数。2009-2010年度の本州河川捕獲数は現在確認中。